

平成15年度 見学会に参加して

諏訪 克利*

平成15年度新潟応用地質研究会の見学会が、平成15年9月26～27日に(株)地盤工学会北陸支部・日本技術士会北陸支部の共催で行われました。

見学会には22名が参加し、私は今回初めて参加させて頂きました。

今回の見学場所は、初日が新潟県上越市の谷浜地区都市公園敷地造成工事現場と群馬県吾妻郡吾妻町の八ッ場（やんば）トンネル掘削現場でした。

二日目は浅間山の天明の噴火による被災跡地（群馬県吾妻郡長野原町～嬭恋村）を見学しました。

◇ 初日（9/26）

見学会初日は新潟駅南口のバスターミナルを8：30に出発し、北陸自動車道を経由して最初の見学地である谷浜地区都市公園敷地造成工事現場に到着しました。

この現場では最初に上越市土地開発公社の現場事務所で工事の概略説明を受け、その後で大型重機による大規模土工とベルトコンベアによる長距離土砂運搬を見学しました。

私はこの現場で3年程前に法面の施工に携わっていたので、その景色の変貌に大変驚きました。

なお、ここで掘削された土砂はベルトコンベアから直接土運船に積み込まれて直江津港の埋め立て事業に利用されているのですが、掘削作業を行うか否かは土運船が航行可能かどうかという船長の判断に委ねられているため、工程の調整が難しいそうです。

その後、上信越自動車道を経由して次の目的地である八ッ場トンネルの掘削現場に向かいました。

この八ッ場トンネルは八ッ場ダム建設に伴って付け替えられるJR吾妻線のトンネルでした。

JR吾妻線は第二次世界大戦中に鉱石輸送を目的として建設されたもので、現在は沿線地区の観光地を訪れる観光客の足として年間約900万人の方が利用しているそうです。

ここで用いられるトンネル掘削機TBM（Tunnel Boring Machine）は日本で二番目の大きさで、TBM掘削による全断面の鉄道トンネルは八ッ場トンネルが日本で初めてだそうです。

残念ながら掘削はまだ行われていませんでしたが、薄暗いトンネルを歩いていくと突然現れるその光景は、さながらSFに出てくる宇宙船の通路のようでした。

*グリーン産業株式会社

「式しま」半張等事出調見理で又各の相対等能成り内大の山内等。計日日ニ会冷具
し控圖全展
。すアで

ひひごお
。式しま
削の削天



写真-1 ハツ場トンネル入り口付近

この後、
しました。
距離等の
二つに書
これは地
調の象等お
本さな方
した。
好るよみ
のではない
既衣さ式
環購を至結
る念前の後
アハ式も新
採れたもの
この石

取調を提平
て160年
費六の期
并る製水機
減益のころ
野山火山開
好日のこ
るこるを善
味もこぶす
たか念取
。す

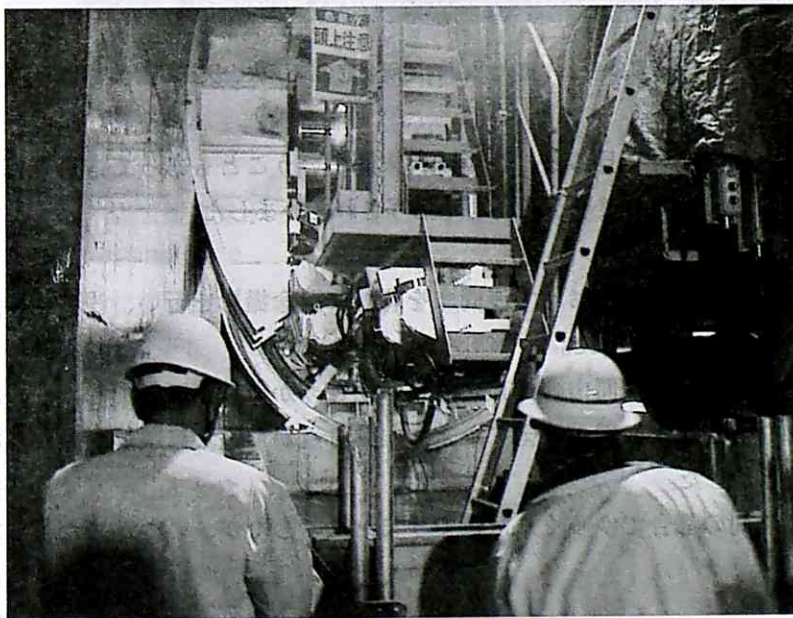


写真-2 TBMメイングリッパー付近

見学会はほぼ時間どおりに無事終了し、大変有意義な時間を過ごすことができました。
最後に、参加者のみなさまと幹事の皆さまに深く感謝いたします。

◇ 二日目 (9/27)

見学会二日目は、浅間山の火山博物館や天明の噴火の被災跡地等を見学しました。

はじめに浅間山東翼に位置する東大火山観測所の敷地において、火山灰の露頭を観察しました。

天明の噴火によっておよそ1.5mの火山灰が降り積もったと推定されているそうです。



写真-3 東大火山観測所中庭の降下火山灰露頭

頂いた資料と会誌55号を見ると、江戸時代末期ということもあって古文書には多くの記録が残されており、当時の様子が生々しく描写されていました。

この後、鬼押ハイウェイにおいて浅間山を背景に記念撮影を行い、浅間山の麓にある浅間山火山博物館に向かいました。

この日はやや雲が多く浅間山の山頂が見えるかどうか微妙な天気でしたが、私たちが到着するころになると徐々に雲が消えていき、山頂付近から僅かに噴煙が上がる様子を観察することができました。

残念ながら時間の都合でゆっくり散策できませんでしたが、いつかまた行ってみたいです。

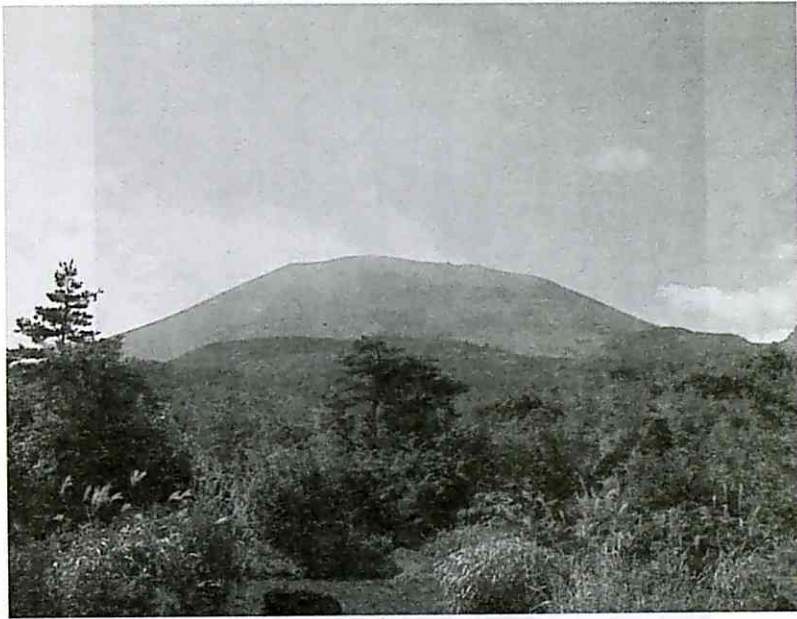


写真-4 浅間山と鬼押し溶岩

この後、天明の噴火による土石流によって流された延命寺の門石と常林寺の梵鐘を見学しました。

延命寺の門石は土石流により流され、その衝撃により二つに割れていました。

二つに割れた門石のうち、大きな方は現在、鎌原観音堂の境内にありました。

これは明治34年に吾妻川の下流約26km地点の河床で発見され、昭和18年になって160年ぶりに鎌原村に返還されたそうです。

小さな方は現在、鎌原観音堂から500m程北へ行った村の道端にさりげなく置いてありました。

これが民家の近くに置いてあるため、集団で観察している様子を見ていると通報されるのではないかと心配でした。

その後、ハッ場ダムの堤体設置場所や原町の大櫓（けやき）を見学し、最終見学地である金島の浅間石を見学しました。

この石は、浅間山から吾妻峡谷の狭窄部を通り抜けて吾妻川を50kmも下ってこの地へ運ばれたものと記載されていました。

この石を巡って、参加者全員で盛んな議論が交わされました。

見学会はほぼ時間どおりに無事終了し、大変有意義な時間を過ごすことができました。最後に、参加者のみなさまと幹事の方々に厚く感謝いたします。



写真-5 原町の大樺

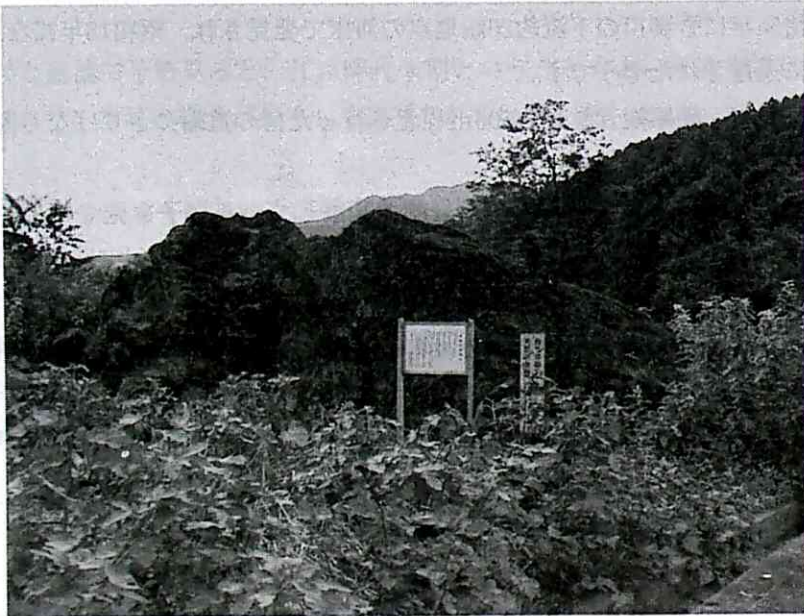


写真-6 金島の浅間石